

山下富美子氏

1. 立候補を決めた理由を教えてください

言論の府である議会における自由な発言が担保されなければ民主主義とは言えない。議論もなしに常に多数派の「異議なし」という声だけでなんでも可決するのは、民主主義の危機であるし、議会のあるべき姿とはかけ離れている。少数派の発言であっても真摯に耳を傾け、活発に議論する場が議会である。地方議会の危機が叫ばれている中、市民にとって、次世代のために良くないことにはNOと言える議員が必要だと考える。

2. 沼津市が現在抱えている最大の課題は何で、どのような対応策が必要だとお考えですか

課題は市民への情報が十分に公開されていないこと。開示請求しても通らないことも多い。市民が市政に関する情報を得られなければ市政への関心も高まらない。議会では各議員が行政提供の資料を鵜呑みにせず自ら検証し、意見が対立する議員でも、その発言根拠や内容が適正か否かを確認するという責務が果たされるべきである。市民への情報公開と情報共有、そしてその過程を明らかにする事が行政と議会、議員に求められている。

3. 沼津駅付近鉄道高架事業により沼津市の再生は可能だと考えますか。

可能だとすれば、そこには、どんな因果関係があると思われますか。

高架化による沼津の再生の成否は、全ての事実が公開され情報共有できた上で議論する必要がある。今年度予算の普通建設事業費の高架化の割合は約3割。今後10年以内に市民にとって深刻な問題（老朽化した市庁舎の建替・ごみ焼却場の更新・老朽化した道路橋梁等のインフラ整備）への対応が迫られており、この時期が高架化整備の時期と重なる。高架化賛成も反対も外部検証し、事業の公益性や事業遂行能力等の議論が最優先。

4. 沼津市の人口減少について、国の関係機関の予測を上回るような沼津市当局が考えている合計特殊出生率の達成は可能だとお考えですか。

移住・定住策で何か、お考えはありますか。

沼津市の出生率は全国や県内平均より低く、周辺市町で最も低い。国の推計では2045年沼津市の推計人口は13.4万人、年少人口（0～14歳）は現在の45%にまで減少する。出生率アップの施策が見えない中、低下は避けられない。移住・定住策では、オーナーと利用したい個人や団体とのマッチングをし「地域コミュニティの活性化・再生」を目指す。今回のふるさと納税の成功例のように実績のある民間事業者の力も積極的に取入れる。